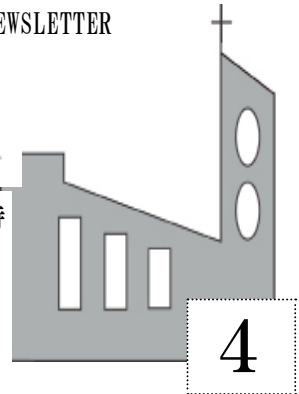


カトリック 大名町教会ニュース

DAIMOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER



〔ミサ時間〕 主日：7時・9時30分／ベトナム語（第2・第4日曜日）：13時半／英語：16時
 〔ホームページ〕 <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>
 〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時
 Tel: 092-741-3687 Fax: 741-5107 〒819-0012 西区能古弁当 1621-12
 発行責任者：中村 彰 神父

4月 復活節

福岡教区年間目標：互いに支え合う交わりの教会となる

大名町教会年間テーマ：出向いて行く教会となる！

Becoming a Church of out 位 reach

主のご復活のお慶びを申しあげます。

祝

受洗おめでとございます！



4月のお知らせ

- ◆9日（火）聖書講座
「～たとえ話が問いかける」
（レナト神父、寺浜神父）
・期間：4月9日～7月2日
毎火曜日 全10回
10時/19時
・主催：福岡教区宣教・養成委員会
- ◆13日（土）福岡教区司教座聖堂献堂記念日
- ◆14日（日）
・9時30分ミサ 幼児洗礼式
- ◆28日（日）
・14時：福岡教区青年センター開設記念
インターナショナルミサ（アベイヤ司教司式）
・主催：福岡地区青年会

・・・時間も 永遠も
かれのもの
栄光と支配は かれに
世々としえに
アーメン

ジョン神父とチュエン神父の勉強会〈4月18日より〉

◆ジョン神父：キリスト教入門講座
日程：毎週木曜日10時・19時



◆チュエン神父：聖書の分かち合い
日程：毎週木曜日14時

ゆるしの秘蹟：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（毎週土曜日 10時～11時半）

受難—復活

一粒の麦が死ねば、多くの実を結ぶ

3月の終わりから4月に入ると、教会はイエス様の受難と復活を祝っています。

イエス様の受難について信じないなら、十字架は死刑囚の処刑と同じです。聖パウロは、「イエスは十字架につけられたが、ユダヤ人にはつまずかせせるもの、異邦人には愚かなものです」と言われました（1コリント1:23）。

しかし、信じる者にとって、イエス様がおられる十字架は聖十字架と呼ばれています。聖十字架は愛の表現です。地上と天上を結び、罪深い人と神様を結ぶ恵みの橋です。

受難によって、イエス様は十字架につかれ、死にましたが、復活されました。

イエス様のご復活は人類に新しい命をもたらします。聖ヨハネによる福音の中の種の例えの話のように、イエス様は「はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」と言われました。（ヨハネ12:24）。

復活したイエス様の愛を感じて、ベトナム人のフォン・アン神父様は「愛の種子」という曲を作曲しました。この曲の歌詞はとてもすばらしいです。

「一粒の麦は、地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ。」

人は世のために命を捧げれば、多くの実を結ぶ。

心は、人々のために余すところなく献身したら、多くのお花を咲かせる

イエス様は愛の種であり、朽ちることはありません。十字架の死をおして復活されました。イエス様の復活のおかげで、私たちもイエス様と同じように復活します。

大名町教会協力司祭

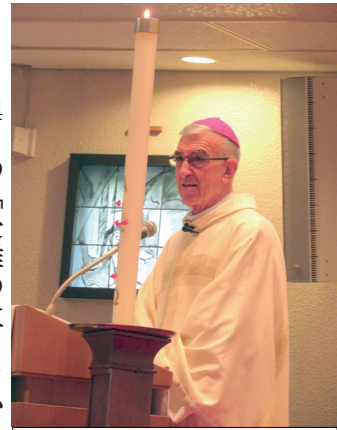
ファンバン チュエン 神父

(3)

復活の主日

久しぶりに聖堂を埋め尽くす喜びの顔

3月31日



神の慈しみを語るアベイヤ司教



3月24日の「受難の主日」から聖週間が始まり、28日「主の晩さんの夕べのミサ」、29日「主の受難の祭儀」、30日「復活徹夜祭」の「聖なる過ぎ越しの三日間」の典礼が、4年ぶりにすべてに聖歌を歌って盛大に祝われ、31日の「主の復活」を迎えた。司式はすべてアベイヤ司教主式で捧げられた。

ベトナム語での祈りが加わり、主が死に打ち勝って復活された喜びに満たされていた。

あいさつ



ご復活おめでとうございます。今年度の聖週間は恵み深い聖週間

だったと思います。聖木曜日の主の晩餐の夕べのミサには、参列者が約100名でそのうち半数が外国籍の方でした。第二朗読を英語でいただきました。洗足式は日本人1名、英語圏の人2名、ベトナム人2名でした。

聖金曜日の主の受難には、参列者が約100名でそのうち半数が外国籍の方でした。第二朗読をベトナム語でいただきました。

聖土曜日の復活の聖なる徹夜祭のミサには、参列者が約200名でそのうち半数が外国籍の方でした。6名の方が入信の秘跡である洗礼、堅信、聖体の秘跡を受けられました。

復活祭のミサには、参列者が約750名でそのうち三分の一が外国籍の方でした。4名の子どもと1名の成人が堅信の秘跡を受けました。

聖週間の典礼に与る人の多様性がありました。聖歌も歌うことができました。復活祭ミサ後の飲食を伴ったパーティーも行うことが出来ました。主任司祭 ヨゼフ 中村 彰 神父

復活の主日

教会学校堅信クラス 堅信式

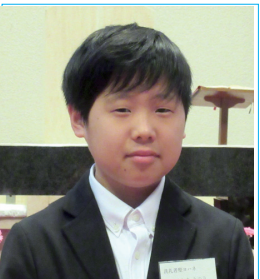
3月31日復活の主日のミサの説教で、「イエスの復活を信じる人に希望と光



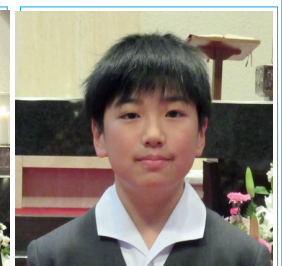
が与えられました。私たちは、神の愛に生きるように招かれています。」と語られた司教様によって、5人が堅信の秘跡を受けた。



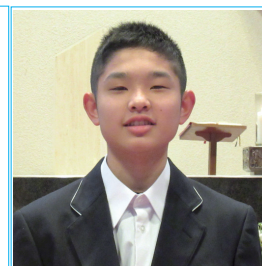
アロイジオ 梅谷 心
これからキリスト教の徒として、教えるので、(中学2年)



洗礼者ヨハネ 実徳
僕は判断(賢慮)の賜物が一番好き。いっぱい受けるように行動していきたい。(小学6年)



ミカエル 高木 守
僕は、堅信を通して、信者としての信仰を深めることができました。(小学6年)



トマ 森 朔太郎
大人の仲間入りができ、とても嬉しいです。教会にできる限り行きたいです。(中学1年)

アンジェラ・ローザ 御手洗 佳那
堅信式を無事に迎えられるようになったと思います。



堅信の秘跡を受けた中学生のみなさん。侍者としてもよき先輩として奉仕を続けてください。

・受堅者のみなさま、堅信おめでとうございます。神さまはすべての人にあふれんばかりのお恵みを与えてくださいます。せつかくのお恵みも、私たちに受け止める受け皿がないと、こぼれ落ちてしまいます。ぜひ、自分に合った受け皿を作ってください。

*教会学校担当リーダーのことば

枝の主日（受難の主日） 聖週間が始まる

3月24日

「キリストは、受難と復活を通して救いの業を完成す



るために、ご自分の町エルサレムにお入りになります。」と司式者は告げる。そして、2日前から数名の方々の奉仕で準備されたソテツの枝を手にした会衆は、「天には神にホザンナ」と歌いながらイエスのエルサレム入城を記念し行列した。行列の後、「マルコによる主イエス・キリストの受難」が3人の朗読者と参加者で読まれる。エルサレム入城を喜んだ人々が、イエスを十字架に引き渡してしまふ「キリストの受難」の朗読は、深く黙想させられる。この日から、主の復活の主日までの「聖週間」が始まった。3月22日（金）に、約750本のソテツの枝を整える奉仕を16名の方がしてくださいました。感謝。

聖香油の祝別と 司祭の約束の更新

3月27日

3月27日（水）15時、福岡教区全ての司祭がアベイヤ司教を中心に集まり、聖香油ミサが捧げられた。



の回復のため、白は司祭叙階や堅信を受ける人のために用いられる。またこの日集まった司祭たちは、叙階の約束を更新して、神と教会に仕える使命を果たす決意を新たにし、会衆は司祭と司教が人々を神に導くことができるよう祈った。



大名町教会のみんなで祝った復活祭

3月31日

祝賀会

コロナ禍での中断をよぎなくされていた復活祭の祝賀会に、約150人が参加。英語ミサや、ベトナム語ミサグループの方々も参加。聖香油ミサから主のご復活の主日まで、連日、ミサの祭儀を司式してくださいました。



復活徹夜祭で洗礼、堅信・聖体の秘跡を受けられ、新しく教会共同体の家族となられた方たち。転会式を通してキリスト教他宗派からカトリック信徒に加わった方たちを迎えての祝賀会となりました。司教様のお祝いの言葉、中村彰神父様のあいさつに始まり、乾杯と共に、テーブルの上のたくさんのお馳走が次々とみなさんのお腹を満たしていききました。行事部を支える協力者のみなさんが数日前から計画されたご馳走の前に、マスクなしのみなさんの笑顔、食欲、楽しいおしゃべり・・・いい光景でした。



新しく大名町教会の家族となられた方々、復活の主日に堅信の秘跡を受けた教会学校の子どもたちの紹介。その子どもたちによる家族の紹介。みんなで教会共同体の家族が増えたことを喜びました。



ジョン神父様の素晴らしい歌声、一人で歌う2部・3部合唱？の美しいハーモニーに拍手が止まりません。英語ミサグループのみなさんの元気で明るく美しい歌声も上々。



そして、全員で歌った聖歌（ウオーキング・ライト）が会場をひとつにしました。教会共

同体のつながりが大きくなつていく喜びとなりました。祝賀会を計画し、準備してくださいました方々、祝賀会の進行や会場設営、後片付けなど、影の奉仕をしてくださいました方々、本当にありがとうございました。



復活の主日 英語ミサグループ

約210名の多くの国の人たちがミサに与りました。70%がアジアの人でした。司式していただいたパウロ神父様は「私たちは主の復活によって神の子となる特権を与えられた」という大切なことを思い起こさせてくださいました。以下は、ミサに参加された方の感想です。

・イエスは私たちの心を開くためにご自分の命を捨て、永遠の命の賜物を与えてくださいました。
(ポール・ストリフラー) (アメリカ)



・私にとってイエスターは、イエス・キリストの犠牲と復活を思い出させ、希望と新しい命の約束を象徴するもの。希望・喜びそして新たな始まりという意味がある。(メリシャ・ディシルバ) (インド)

・イエスターはキリスト・イエスへの信仰を新たにするとき。(ジヤネット・オコス) (ケニア)

・私たちのために十字架を背負い、私たちのために復活し、希望を与えてくださったイエスへの感謝で満たされる。(カテリーナ・キクチ) (チエコ)

・イエスターは「祝祭の中の祝祭」。イエスの死と復活は、死が終わりではなく始まりであることを私たちに示す。(ジョージ・ピネダ) (スペイン)

・復活祭の祝福を受けるために、信仰をもって十字架と主の死を受け入れなければなら

ない。(ウイリー・ジョーダン) (インドネシア)

・イエスターは、イエスは罪深い私たちのために、どれほど多くのことをしてくださいましたかについて黙想するとき。新しい生活、新しい始まりを祝い、母国のイエスターの伝統を守るときが来た。(ドミニカ・ヒグチ) (ポーランド)

(パトリシア・フロレス)

復活の主日

ベトナム語ミサグループ

司式していただいた神父様は、山口県から初めておいでになった「DOMIN (トアン)」神父様でした。

普段の日曜日は、約100人集まってくるミサですが、きょうは約250人が、集まりました。そのほとんどの方は20歳代の若者たちでした。技能実習生や留学生、働いている人、小さい子ども達がいる若いご夫婦、日本で一生懸命生活している人たちです。



練習した主の復活をたたえる聖歌は、混声合唱の力あふれるうつくしい合唱で聖堂一杯に響き渡りました。

ミサ中、立ったままで祈り、歌い、主を讚美している人たちの大きな声が聖堂中に響いていました。

「主のご復活をお祝いするために来ました。私たちの喜びです。」「困った時、迷った時、祈ります。神さまは必ず助けてくださいます。」「イエス様が復活されたことは、私たちもそのようになるということです。希望が持てます。」などと元氣強く話してくれた若者たちでした。

能古島教会での黙想会



2月24日と25日、大名町教会では長崎教区の古巣神父様による「出向いて行く教会となる」をテーマとして黙想会がありました。こんなに良い黙想会を大名町教会だけで参加できることは、思いませんでした。私たち小教区の共同体は、大名町教会だけではなく、巡回教会の能古島教会共同体もあります。しかし、直接来ていただくのは、物理的、距離的、時間的限界

があります。そこで古巣神父様に特別なお願いをしました。黙想会を撮影、録音して、能古島共同体にお見せすることです。神父様は喜んで許可してくださいましたので、2日分の黙想会の動画を録画しました。そして、3月2日と9日の二回に分けてテレビを通して放映しました。当然なことですが、信徒のみさんの反応は、喜びでした。今まで、大名町教会や教区での行事はいろいろありましたが、なかなか参加していただくことはできませんでした。しかし、今回このような形でも参加できることはよいことだと、今回の件を通して感じました。

大名町教会 助任司祭 マルチエロ・アパメア ジョン・ウオンチヨル神父

シノドスの実践「共に歩む教会」③

「宣教について」



福岡教区が掲げる宣教司牧方針の具体的な実践を目指すシリーズの3回目です。「共に歩む教会」交わり、参加、宣教」をテーマに、みことばを聞き黙想した後、分かち合います。教区の信仰養成チームがプログラムを用意し、同伴してくださいます。

3月3日のミサ後、教区信仰養成チームの安藤智子さんによるシノドスと分かち合いについての説明から始まりました。分かち合いに導くための大山悟神父さま(大神学校)は「イエスと宣教」「パウロと宣教」

について「神様はイエスを遣わし、イエスは弟子を遣わした」と福音書をもとに具体的に語られた後、「教皇フランシスコ、使徒的勧告」について、「出向いて行く教会は、宣教する共同体である」と話されました。次に「コリントの信徒への手紙1-9・16」を提示されました。この中でパウロは「福音のためなら、わたしはどんなことでもします」と語っています。神父様の話と福音書に記されているパウロの言葉を黙想し、分かち合いました。

3回の分かち合いを通して、福音書に書かれていることを「分かち合う」学びの喜びと素晴らしさを次第に深く感じる事ができるようになりました。学び続けたいとの多くの声があり、大名町教会宣教司牧評議会宣教部を中心に今後の開催に向けて検討していくことになりました。

宣教司牧評議会

(3月10日)

◆ 議題

- ① 総会資料について
 - 第48回総会資料に準じて作成することとし、作成スケジュールを決めた。
 - 5月19日の総会では、各部、アクション団体の活動報告を中心議題とする。
 - 会計報告総会は6月2日に行う。
- ② 立て看板・掲示板について
 - 第6回(2月14日)立て看板・掲示板検討委員会で検討され修正案について説明があり承認された。
 - 費用総額は4,888,400円→2,561,900円へ圧縮した修正案を信徒総会に諮って決定する。
- ③ 復活祭の準備状況について
 - 準備事項役割分担表に基づき行事部より説明があり準備事項とスケジュールを確認した。
- ④ 2024年度小教区年間テーマについて
 - 教区の宣教司牧方針に則り、教区と同一の「互いに支え合う『交わりの教会』となる」とし、総会で決定する。
- ⑤ 絨毯掃除用の高圧洗浄機購入について
 - 見積書を取った結果、業務用は想定範囲より高額となった為、今回は見送る旨説明があった。
- ⑥ 各種準備事項について
 - 教会事務室との役割分担について
 - 年間行事に係る準備事項をリストアップし、教会事務室との役割分担を明確にして、情報の共有化や意思疎通の円滑化を図るため役割分担表を整理中

- あり、本件について意見交換を行った。
- ⑦ 教会事務員の募集状況について
 - 3月10日に募集を締め切るが、現在1名の応募がある旨報告があった。
- ⑧ その他審議事項

- ① 3階パイプオルガンの演奏席から司祭方の入退場は振り向かないと確認出来ない状況であるため、モニターを設置し、演奏しながら確認出来る方法に改善したいとの提案があり、承認された。(機材費用は30,000円程度)
- ② 最近、韓国などの外国の巡礼団が増加している。ミサを行う際の小鐘を教会に常備したいの提案があり、承認された。(購入代金は40,000円程度)
- ③ 青年センター、そして祈りの部屋としても活用が決まっている1階控室に掲げる「復活のイエス像」を決定した。
- ④ 1F講堂ステージ下収納の使い古したパイプ椅子の廃棄案が提案され承認された。

◆ 報告事項

1 各部活動報告

(1) 営繕部

- ① 「司祭室リノベーション」工事完了報告
 - ② 不要物の廃棄処理について完了報告
 - ③ 消防設備点検の完了報告
 - ④ 故障修理等についての完了報告6件、新たな受付5件。
 - ⑤ 駐車場の利用方法について
 - 杉山評議員より、今後の駐車場の利用は安全性及び災害時の避難経路の確保の観点から駐車スペース枠内のみの利用に制限する方向で検討する旨の報告があった。
- (2) 典礼部
- ・ 典礼委員会(3月8日)で聖週間に向

けての検討報告が書面でなされた。

(3) その他

- ① 3月3日開催の教区信徒協について、その存続のあり方について議論があった旨報告があった。
- ② 司祭承認印2個、教会ゴム印3個、クリスマス特別献金封筒1,000枚 ¥1,828円(総務部)
- ③ クリスマス特別献金より ガザ人道支援 ¥100,000円、美野島司牧センター ¥100,000円(2月13日)
- ④ 個人献金 ¥674,000円(2月18日)
- ⑤ 福岡地区信徒協「殉教者たちのキリストへの愛の証を学ぶ」講演会時の「の地震支援」献金 ¥55,411円(2月23日)

Sr. 藤田優香 東京修道院



たぐささんの愛をありがとうございました。

大名町教会の現勢

2月中旬から3月

【転入】 ようこそ(転会により)

・ マリア 生田 美帆

・ ペトロ 河野 寛

【結婚】 おめでとございます

・ 青柳 和孝 マーガレット 高瀬 理沙

【帰天】 永遠の安息をお祈りします

・ 2月29日

セシリア・フランシスカ 野山 敬子

・ 2月中旬

マリア 石本 礼子

※【洗礼】【初聖体】【堅信】は本文の中で紹介しています

「復活節」

一つの祝日・大いなる主日

復活節は「主の復活」(今年は3月31日)から「聖霊降臨の主日」(5月19日)までの50日間です。

復活節は、私たちの信仰の核である主の復活の神秘を50日かけて黙想し祝う「一つの祝日・大いなる主日」です。そのために、福音では復活された主のご出現の様々の場面が、「週の初めの日」という書き出しで告げられ、聖霊降臨の主日のヨハネ福音の聖霊の授与も復活の日の出来事です。

復活節には八つの主日があります。「8」は完成を象徴する数字で、主の復活を記念するとともに、私たちの救いの完成への希望を表します。以前、主の復活の8日目、第2主日は「白衣(びやくえ)の主日」とも呼ばれ、復活徹夜祭で受洗した方々が再度この日、白衣をまといミサに参加しました。この季節を彩るのは、何といつても「アレルヤ(神に賛美あれ)」の響きです。

復活の主日後の8日間、第2主日、聖霊降臨の主日の派遣の言葉には「アレルヤ」が加えられ、聖母賛歌でもアレルヤが繰り返されます。死に打ち勝った勝利にわく喜びの時です。

復活節はまた、新受洗者がいただいた信仰の恵みを味わい、その恵みの意味を深める学びの時です。すでに洗礼を受けている人たちにとっても、信仰を養い深めていく時です。そのために、第1朗読は使徒言行録から福音が広く人々の間に広まっている様子が、第2朗読ではヨハネの手紙から信仰を生きていくための具体的な勧めが告げられます。喜びと感謝、学びの時として過ごしましょう。

ミカエル 深堀 純